

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【音楽（器楽）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
17 教育出版	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、各楽器についての基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「演奏の仕方を身に付けよう」と、身に付けた奏法の活用をねらった「合わせて演奏しよう」を設けるなどの構成・配列の工夫が見られる。また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「唱歌について」のページを設けたりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、教材ごとに「学びのねらい」をスタート、「まとめの曲」をゴールに設定し、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。また、身に付ける技能の模範となる演奏を試聴できる「まなびリンク」や「話し合おう」のコーナーが設けられ、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢とかまえ方」等のコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、鮮やかでダイナミックな写真を多く使うなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。</p> <p>(4) 基礎的な演奏の技能を身に付け、表現するために、学びのねらいを明確にしている。まず、音色と奏法との関わりを理解しながら、奏法を身に付けるための教材が提示されている。また、学びのポイントを踏まえ、「まとめの曲」に学習を進めることで、創意工夫を生かした表現ができるような工夫が見られる。特に和楽器を扱う教材では口唱歌を扱い、特徴を理解したうえで基礎的な奏法を身につけ表現するという工夫も見られる。</p>	<p>目次</p> <p>P40、P51</p> <p>P23</p> <p>P6、7</p> <p>P20、21</p> <p>P6、P8</p> <p>P9</p> <p>P22、P43</p> <p>P26、P52</p> <p>P4、5</p> <p>P18</p> <p>P28</p> <p>P6、7</p> <p>P23、40、51</p>

27 教育芸術社	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、楽器の基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「アンサンブルセミナー」と、身に付けた奏法の活用をねらった「アンサンブル」や「楽器でMelody」を設けるなどの構成・配列の工夫が見られる。また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「演奏者からのメッセージ」を掲載したりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「アンサンブルセミナー」では「学習目標」「活動文」「深めよう！音楽」によって、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。また、様々な演奏や動画等を視聴できるQRコードや「深めよう！音楽」のページが設けられ、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢と構え方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、リコーダーの運指表のカラー掲載や替え指の紹介等、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。</p> <p>(4) 基礎的な演奏の技能を身に付け、表現するために、さまざまな楽器の奏法、基礎的な技能を、写真で説明するなどの工夫が見られる。また、手順を追って取り組むことで技能の習得につながるような手立てがなされている。特にリコーダーでは、LESSON 1 から LESSON 4 と段階を追って技能を身に付け、表現する工夫が見られる。さらに、各楽器の奏者からのメッセージや、学習をサポートする資料等を掲載するなど、演奏への意欲を引き出す工夫も見られる。</p>	<p>目次</p> <p>P46、P55 P59、P40</p> <p>P10～15</p> <p>P17、33 P41、P51</p> <p>P16、18 P34、35 P100、101</p> <p>P18 P20～30 P40、50等 P13</p>
----------	---	--